

## 子どもの権利を守る社会に

国連子どもの権利条約を日本が批准してすでに28年。しかし、「子どもの権利」は未だ根付いていない。過度な受験競争や、JKビジネスなどの子どもを対象とした性的搾取など、国連から度重なる勧告を受けながら、日本は子どもの権利を守る国内法を整備してこなかった。

子どもの意見の尊重など4つの原則を掲げる条約は、子ども自身が大切にされる存在だと実感できる環境の中で、その子らしく育つことを保障するものだ。

コロナ禍で虐待や貧困、不登校、自殺が増え、子どもの環境がより過酷になっている今こそ、子どもの権利を守る大人の姿勢が問われている。

調布・生活者ネットワークは子どもの権利を政策に据え、2005年に「調布市子ども条例」の制定を実現させた。しかし、当時「しつけとしての体罰は必要」との意見も出る議会や社会の中で、「子どもの権利」という視点を明確に条例の中に位置づけることはできなかった。

昨年制定された東京都子ども基本条例は、子どもの意見を施策に反映させる環境や権利侵害を受けた子どもの救済体制を整備すると示した。調布市でも、困っている事を的確に言葉にできない子どもの気持ちを聞いて必要な支援につなげる子どもオンブズパーソンの導入等、子どもの権利の視点からの条例改正を働きかけていく。



## ネット恒例！給食ヒアリング

2020年春、コロナの感染拡大による突然の休校で、一大事の一つは「給食がない！子どもの昼食は給食があるから安心してたのに。」給食の有難さが改めて意識された。

牛乳容器の変更をきっかけに初めて給食ヒアリングを行ったのは、一昨年のこと。第2弾の今回も、小中学生の保護者と一緒に、学務課給食担当や栄養士から学校給食の取り組みについて話を聞き、意見交換をした。

10年前の死亡事故以来、学校給食最大の関心事はアレルギー対応であり、子どもたちそれぞれのアレルギーに応じた給食を提供しているとのこと。保護者からはお盆の色の違いで差別を感じないよう全員が同じアレルギー対応食を食べる日を作るという提案もあったが、子どもの間に差別感はないそうだ。

ウクライナ侵攻の影響を受けた給食費の高騰に対しては、国からのコロナ給付金の一部を給食費に充てることで、家庭の給食費負担は変わらない。

外国産の小麦に含まれる農薬を心配して、保護者からは国産小麦が高いなら毎日ご飯の給食でもいいのではとの声も上がった。また、調布市は「遺伝子組み換え食品は給食に使わない」と明記しているが、これに代わるゲノム編集食品には表示義務はない。未来を担う子どもたちの長い人生を支える食を守る話し合いを今後とも継続していく。



## 活動報告

- 3/31 新たな総合福祉センターの機能・設備に関する検討会①傍聴
- 4/11 調布LGBT&アライの会「性の多様性をめぐる学校教育の課題」(渡辺大輔氏)
- 4/20 調布市ふじみ交流プラザ内覧会
- 4/26 調布市議会全員協議会「市政情報公開手続における個人情報不適切な取扱い等について」
- 4/27 調布市基本構想策定推進市民会議⑩傍聴(⑩5/27・⑩6/16)
- 4/30 毎日メディアカフェ主催「子ども家庭庁に関する子どもシポジウム」視聴
- 5/7 調布・生活者ネットワーク おしゃべりカフェ(議会報告会)
- 5/11 調布LGBT&アライの会「LGBTと政治」(尾辻かな子氏)
- 5/14 生活クラブまち調布・柏江主催「これからどうなる?ゲム編集～私たちにできること～」(前田和記氏)
- 5/19 調布・生活者ネットワーク 学務課給食担当ヒアリング
- 5/21 長友市長謝罪会見@つつじヶ丘児童館ホール
- 5/22 政治参画フォーラム「コロナ禍の下での教育と政治」(前川喜平氏)・「コロナ禍で見た教育政策の課題」(清水睦美氏)・「GIGAスクール構想の課題と今後の教育について」(手島純氏)

詳しい活動はブログでも



- 5/28 調布市総合水防訓練
- 5/31 新たな総合福祉センターの機能・設備に関する検討会②傍聴
- 6/2 調布市議会 第2回定例会開会(～17日)
- 6/6 市議会 一般質問(～8日) 6/10 市議会委員会審査
- 6/11 たづくりまつり講演会「住民参加の街づくりとは?」(連健夫氏) 市川房枝連続講座「産科暴力と女性の身体権」(早乙女智子氏)
- 6/22 カリア・ネットワーク主催「脳科学に学ぶ化学物質過敏症」連続講座①(石川憲彦氏・山口和彦氏) 調布市教育プラン策定検討委員会①傍聴

下:5/7 おしゃべりカフェ  
右:5/22 白井なおこ日野市議と

